

令和元年度 校内研究について

津ノ井小学校
研究主任

1 研究のテーマ

「心豊かに生きる、やさしくたくましい津ノ井っ子の育成」
～主体的・対話的で深い学びを展開する道徳授業の工夫～

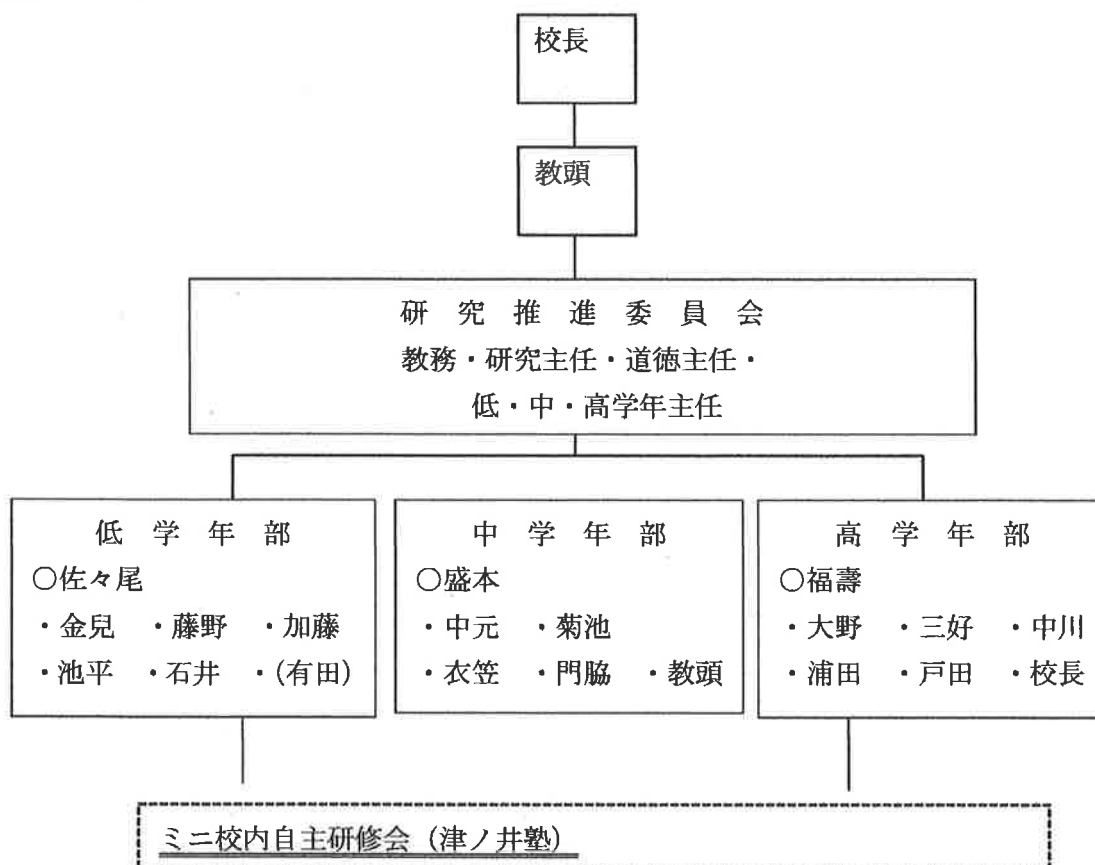
2 テーマを設定した背景

平成30年度から「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として、新たに位置づけられた。その発端となったのは、いじめの問題の対応であり、児童が現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成していく上で、道徳教育も大きな役割を果たすことが強く求められたからである。道徳教育を通じて、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくことが必要である。そのためには、その道徳教育の要としての役割を担う道徳授業の改善が重要であると考えられる。

本校もここ数年にわたり、「心豊かに生きる、やさしくたくましい津ノ井っ子の育成」を道徳教育の重点目標にして取り組んできた。友達に対して思いやりを持って接する児童が徐々に見られるようになった反面、まだまだ人間関係をうまく構築できないでトラブルとなることもある。さらには、保護者アンケートでも実態や願いとして出された「目標に向かって粘る強く努力する」という「たくましさ」はまだまだ大きな課題であるといえる。

そこで新学習指導要領の重点である「主体的・対話的で深い学び」を生かした道徳授業の改善を行うことで道徳科の目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習」を実現し、本校の重点目標である「心豊かに生きる、やさしくたくましい津ノ井っ子の育成」に取り組んでいきたい。

3 研究の推進体制



4 研究仮説

主体的・対話的で深い学びを展開する道徳授業の工夫することで、本校の重点目標である「心豊かに生きる、やさしくたくましい津ノ井っ子の育成」する。

○主体的とは、児童の一人一人が道徳諸価値を自ら問題として考え、道徳的価値を視点に自己を見つめること

○対話的とは、教師との対話、児童相互との対話、教材との対話、自分との対話を通して、多様な感じ方や考え方に触れ、考えの異同に気づいたり比較したりしながら、自己の生き方について考えを深めること

それらをもとに協働して、多面的・多角的に考えられるような指導の工夫を行うことで、よりよい生き方について深い学びができ、本校重点目標の達成につながる。

5 研究内容

(1) 主体的・対話的で深い学びを展開する授業づくり

- ・子どもが考えたいくなるような導入の工夫～授業に一本筋を通す導入をどう設定するか～
- ・中心発問の工夫
- ・問い返しによる深い学びの工夫
- ・板書の工夫～記録から学習を深めるためのツールに～
- ・子どもの学び合いの工夫～ペア、グループでの話し合いの工夫～

- ・ 道徳ノートの工夫～何を学んだのかをいかに自己評価させるか～
- ・ 学習環境の整備（学習した教材の掲示）（場面絵の保存）

(2) 児童の成長を願う評価のあり方

- ・ 道徳科の評価のあり方についての研修
- ・ 道徳ノートの取り組み方と活用
- ・ 研究授業を通しての児童の評価の見取りのあり方
- ・ 道徳アンケートでの実態の把握

6 研究予定（・は授業研究会以外）

月	日	講師	全体研授業者	部会研
5月	・ 第1回「道徳学習についてのアンケート」実施			
6月	13日(木)	文科省 調査官 浅見哲也先生	① 5-1 三好学級	4-2 盛本 学級
6月	26日(水)	未定 (東部教育局)	② 4-1 菊池学級	
7月	17日(水)	未定	③ 6-1 中川学級	
8月	・ 研究会参加 ・ 校内夏季研修会			
9月	・ 先進校視察			5-2 福寿学級
10月	30日(水)	未定 (東部教育局)	④ 3 中元学級	6-2 大野学級
11月	27日(水)	未定 (東部教育局)	⑤ たんぼぼ 石井先生 なしのみ 戸田先生	1-1 藤野学級
12月	3日(火)	文科省 調査官 浅見哲也先生	⑥ 2-1 池平学級	2-2 佐々尾学級
			⑦ 1-2 金児学級	
・ 第2回「道徳学習についてのアンケート」実施				
2月	・ 校内全体研修会（研究の振り返り） ・ 研修収録刊行（2月上旬原稿〆切 2月中旬印刷） ・ 校内全体研修会（来年度に向けて）			

(補足)

①校内授業研究会について

- ・原則として全員が授業研究会を行う。
- ・道徳科の研究授業を原則とするが、道徳科の授業を行っていない場合は、他教科でもよい。
- ・各学年1名は全体研究会として、講師を招聘して研究授業を行う。
- ・部会研、全体研とも必ず事前研究会を行う。(研究内容の共通理解の場、できれば模擬授業)
- ・全体研の場合は、次のようなスケジュールになる。(部会研はこの限りではない)

第1回事前研	内容等の概要の決定	3週間前
第2回事前研	指導案等の検討	2週間前
第3回事前研	指導案仕上げ・模擬授業等による事前検討	1週間前
- ・講師については県外講師以外は東部教育局または市教委にお願いする。
- ・全体研の学年、日にちを決定した後に、部会研の日程を決定する。
- ・研究のまとめの関係で、2月の島先生を招いての研究授業の指導案や記録は研究収録本体には含めず、別冊とする。

②ミニ校内自主研修会(津ノ井塾)について

本来ならば、研修時間を設けて全員で研修をすればよいが、時間的に難しい。そこで、研究推進のために必要な情報や研修を広げるために自主研修の場を設ける

○原則として以下のように行う。

- ・月一回、原則第4金曜日
- ・時間は4時15分から5時の45分間
- ・内容は、道徳授業に役立つ内容を基本とする
- ・参加、不参加は自由。
- ・資料がある場合は、受講していない全職員にも配布する。
- ・内容は事前に連絡する
- ・場合によっては初任研の講義と兼ねる場合もある

③研究通信の発行について

研究を円滑かつ効率的に推進していくため以下の目的で研究通信を発行する。

- ・研究授業の役割分担および内容について
- ・研究推進に関わる連絡事項
- ・道徳科についての情報
- ・研修報告